

教科目名 技術者倫理 (Engineering Ethics)

学科名・学年 : 全専攻 2年 (教育プログラム 第4学年 ◎科目)
 単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)
 担当教員 : 福永 圭悟

授業の概要			
20世紀に驚異的な発展を遂げた科学・技術の影響は社会生活の隅々にまで及び、科学者・技術者にはとりわけ高い社会的倫理観が要求されている。この授業では、科学・技術が関わった事件・事故を取り上げて、技術者に求められる倫理を実践的に学ぶ。このことにより、誇り高い技術者とは何かを考える。また、本講義では正解というものが無い。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A2), JABEE目標(b)	
(1)技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解する。(定期試験と課題) (2)技術者が社会に対して負っている責任を理解する。(定期試験と課題) (3)技術者が持ち合わせなければならない倫理観について自分の意見を述べる事が出来る。(定期試験と課題) (4)演習課題を通して、自律的な行動規範を設定できる技術者の姿を考えることができる。(定期試験と課題)			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	技術者の責任	責任とはなにかを学ぶ。	【理解の度合い】
2	チャレンジャー号事件(第1章)	事故事例の分析より防止策の立案へ展開することの重要性について学ぶ。	
3	倫理と法(第2章)	技術者倫理の位置付けや法律との関係について学ぶ。	
4	水俣病事件	発生した事故に対する個人、会社、国の責任について学ぶ。	
5	専門職の倫理(第4章)	専門家の誕生により専門化と素人の関わりがどのように変化したかを学ぶ。	
6	安全性とリスク(第5章)	安全性とリスクのバランスについて学ぶ。	
7	ギルベイン・ゴールド	企業の内部告発による問題点について考え、人権保護の重要性について学ぶ。	
8	(第7章)		
9	企業における倫理	企業の目的と社会的責任、企業が求める価値基準と行動基準、企業における儀礼者倫理について学ぶ。	
10			
11	倫理的問題の解決策(第8章)	倫理をめぐる諸問題を「事実的問題」「概念的問題」「線引き問題」の三つに分けて考察することを学ぶ。	
12	地球的視野をもつ技術者の倫理(第9章)		
13	技術者が遭遇する倫理問題	研究段階、計画段階に関連する事例を取り上げ、具体的な技術者倫理を学ぶ。	
14	技術者倫理に関する演習問題	今日的課題である「説明責任」「透明性の確保」に対して、様々な局面を想定した演習問題を通して、「リスクの予測と技術者倫理に基づく分析と対応能力」の必要性を理解する。	
15	前期期末試験	事前に提示された課題について解答する。	【試験の点数】 点
	前期期末試験解答と解説	提出したレポート内容に基づき、各自の意見を発表。	
履修上の注意	講義の途中でもわからなくなったらすぐに質問してよいこととする。 歴史、倫理、TV、新聞などの評論や記事などに注意深く目を通す。		【総合達成度】
教科書	藤本温ら、技術者倫理の世界、森北出版。		
参考図書	適宜プリントなど配布、中村清治「生活様式の理論」、石谷清幹「工学概論」、加藤寛一郎「墜落」、吉川弘之「テクノロジーの行方」、岡田哲郎「技術文明の光と影」		
事前準備学習	普段から、新聞、TVなどの企業関連ニュースに注目しておくこと		
関連科目	環境保全工学。		
総合評価	定期試験(80%)およびレポート・ディスカッション等(20%)を総合評価する。 総合評価が60点以上を合格とする。		【総合評価】 点